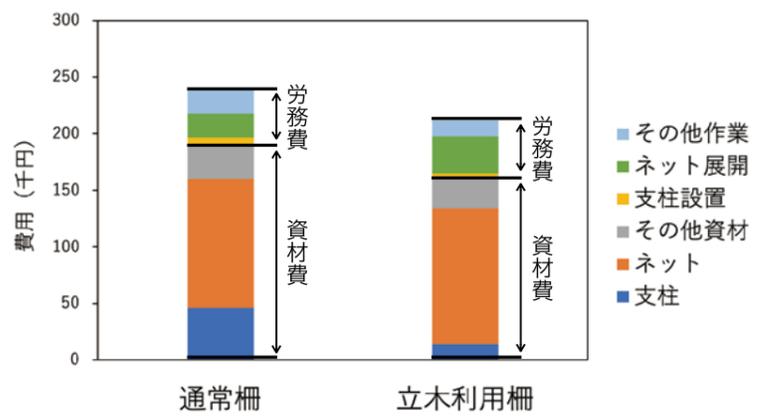


通常防護柵と立木利用柵のコスト比較

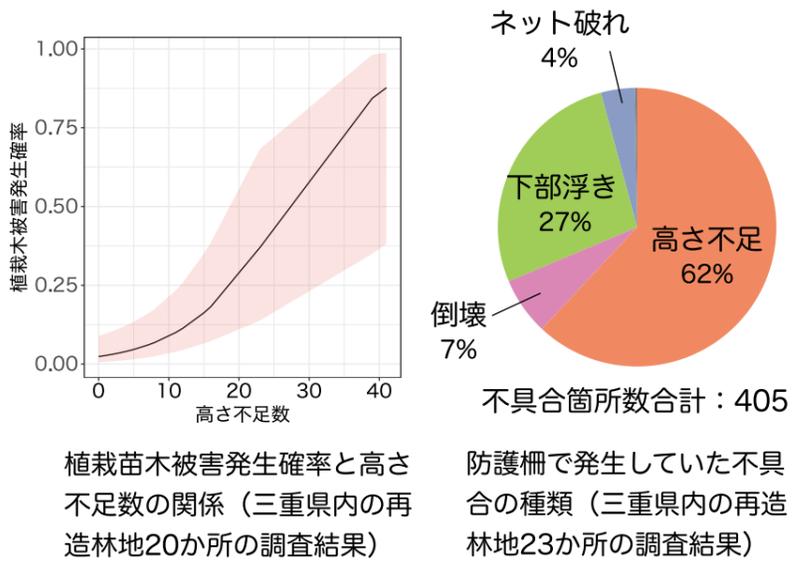
- ・支柱本数の減少により、立木利用柵の方が資材費が小さい
- ・労務費はほとんど同じ
- ・トータルでは立木利用柵の方が100mあたり約28,000円コスト安



通常柵と立木利用柵の100mあたりのコスト比較 (通常柵は平坦地、立木利用柵は傾斜地で設置)

高さ不足と被害発生の関係

- ・高さ不足が多いほど再造林地の苗木被害が多い
- ・柵不具合の中で高さ不足の発生頻度が高い
- ・苗木被害防止のために高さ不足の発生対策は重要



植栽苗木被害発生確率と高さ不足数の関係 (三重県内の再造林地20か所の調査結果) 防護柵で発生していた不具合の種類 (三重県内の再造林地23か所の調査結果)

立木利用柵で高さ不足の発生対策可能

立木利用柵の実証試験継続中



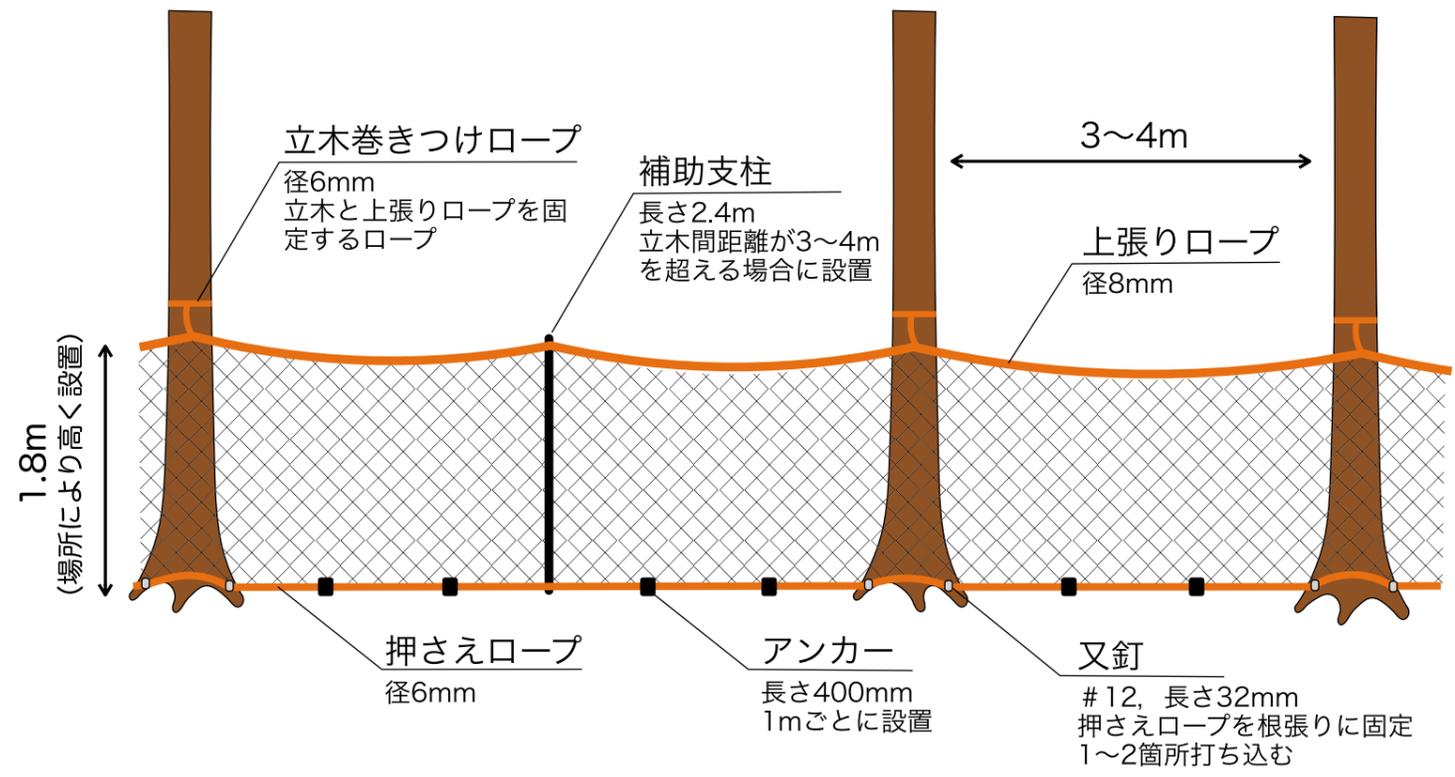
長期間の使用における実用性を検証中

※ 柵不具合の発生有無や柵メンテナンスにかかる労力など

立木を利用した獣害防護柵の設置方法

獣害防護柵の設置に立木を活用することで、獣害防護柵の弱点を補い、資材費を下げる事が可能です

立木を利用した防護柵のイメージ



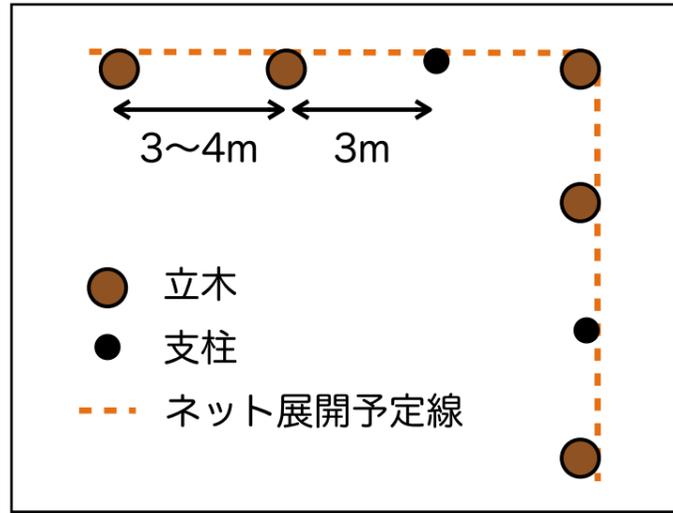
メリット

- ・通常の支柱より高強度 (傾きにくい)
- ・高さ不足時の補修・補強が容易
- ・資材コストが下がる

注意点

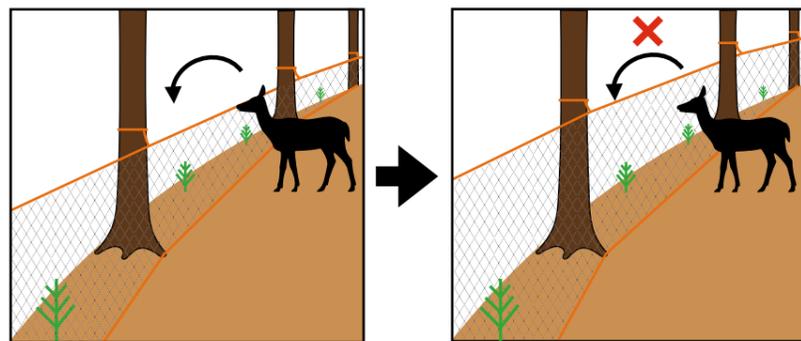
- ・皆伐前に残す立木を計画する必要あり
- ・風倒に注意 (なるべく立木を孤立させない)
- ・ほとんどの場合、補助支柱は必要

1 支柱の打ち込み



- 立木間距離が3~4mを超える場所に支柱を打ち込む
- 立木と支柱の距離は3m未満になるよう注意する

2 ネット展開



高さ1.8mでは飛び越え
リスクがある場合

部分的に1.8mより高くする

- 基本は立木が防護柵の内側になるようネットを展開する
- ロープを用いて上張りロープを立木に固定する
- 斜面上側など地形により高さが確保しにくい場所は標準の高さ（1.8m）より高くする

✓ 立木と上張りロープの固定方法



1 ロープを立木に1周巻きクロスさせる



2 クロス部の上側のロープの端部を持ち



3 クロス部の下に通す



4 ロープの端部を引っ張る



5 両端部を引っ張り緩まないようにする（巻き結びの完成）



6 両端部のロープを同時に持ち上張りロープにかけ



7 ロープをクロスさせて輪っかを作る



8 端部を折り返し、折り返した部分を輪っかの中に通す



9 折り返した部分とロープの端部を引っ張る（引き解け結びの完成）



10 折り返した部分でできた輪っかの中にロープ端部を通す



11 ロープ端部を引っ張る



12 立木と上張りロープの固定完了

3 アンカー・又釘打ち込み



- 1mごとに押さえロープにアンカーを打ち込む
- 立木の下部では又釘を用いて押さえロープを根張りに1~2か所固定する